

■腫瘍内科

当科は2006年10月に創設、今年で15年目を迎え、常に成長・拡大を続けています。在籍医師数は研修医の修了・卒業などで毎年変更されますが、2021年4月には内科専攻医として新入職の後期研修医4名（内亀田総合病院初期研修修了者1名）、旧内科専門医制度の期間を規定していない後期研修医1名、1年間の短期研修医1名、前年から引き続いての新内科専門医制度下の後期研修医2名、旧制度の後期研修医1名、指導医2名の総勢7名（+内科専攻医4名）からなります。外来患者数は約50名、入院患者数は約50-60名います。患者数は在籍医師数にても増減はありますが、一定数伸びております。

当科はがん診療を行う関係各科と複数のカンサーボード、コンサルトを通じ緊密に連携しています。

診療と教育の質の向上のため、2017年からは海外のがん診療の専門家と国際カンサーボードを定期的に行っております。米国ダートマス大学准教授白井敬祐先生（肺がん、黒色腫、免疫療法）とは毎週、米国サンアントニオ大学腫瘍内科教授（乳がん）のDr. Virgilia Kaklamaniとは毎月、英国Royal Marsden病院のDr. Robin Jones（肉腫）は毎月行っております。肉腫のカンサーボードでは同時にごん研究センター東病院腫瘍内科の細野亜古先生にも参加いただいております。

2019年より、東京医科歯科大学腫瘍内科講師の池田貞勝先生大学を、当院の腫瘍内科/ゲノム診療科特任部長として招聘し、がんゲノム医療を開始しました。腫瘍内科内にがんゲノム医療部門を開設し、専属の看護師長、事務スタッフ、腫瘍内科看護師1名、腫瘍内科医師と、チームを構成し運営しております。2019年にがんゲノム連携病院の指定も受けており、がんゲノム医療を精力的に遂行し、院内での知識・技術を広める活動を行っております。

また、腫瘍内科専任看護師も1名在籍しており、腫瘍内科の医師とともに、きめ細やかな診療のサポートを行っております。

毎年の患者数増加、各科との連携、上記国際Webカンサーボード、がんゲノム医療などを通じ、診療、教育、研究活動の発展に日々努力しております。

当科は日本で唯一の米国式診療と教育体制を敷く腫瘍内科です。後期研修医プログラムはこれまで13期の卒業生を輩出し、亀田総合病院、大学病院、がんセンター、地域総合病院、在宅・緩和を担う医院などへ明日のがん医療を担う人材を輩出してきております。腫瘍内科の患者さまは主に外科系各科、内科系各科、救急部、亀田京橋クリニック、安房地域医療センター、その他の医療機関からの紹介です。これまで腫瘍内科以外の各科で診療してきた、内科的治療が主たる病状の様々ながん患者さまが、きめ細かい全身管理と、がんに対する専門知識を駆使した専門性の高い医療が受けられるように、私どもは腫瘍内科スタート当初より努力して参りました。治療手段として抗がん剤と放射線治療を用い、最新のがん治療を展開しております。がん診療を行う各科が協力し合い、亀田のがん診療と教育は日本のトップクラスに君臨していると考えています。

腫瘍内科は、悪性腫瘍診療に関係する各科（消化器外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、口腔外科、乳腺科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、心臓血管外科、婦人科、皮膚科、消化器内科、呼吸器内科、血液科、緩和ケア科）と協力し、今後も研修医の教育、高品質のがん医療を継続・発展させて参ります。また研究活動も継続します。そして亀田総合病院の医療と医学教育全体の質の維持と向上に寄与していくため努力して参ります。また、腫瘍内科部門は新内科専門医制度に対応し、その上の内科系サブスペシャリティーであるがん薬物療法専門医取得のための教育機関でもあります。

1. 2021 年度の目標及び方針

1) 腫瘍内科スタッフの維持、増員

病院の所在地から、長期に勤務する指導医の確保に難渋しているが、後期研修医は上記努力により常に一定数を確保している。今後も、がんを診察する優秀な内科医のニーズに対応できる腫瘍内科スタッフを維持、増加させ、期待されるレベルの診療を行うとともに、病院の長期的利益に貢献し続けて行く。

2) ゲノム関連医療拠点病院の指定取得に努力する。

3) 高品質の医療を継続し、発展させてゆく。

国際 Web キャンサーボードを継続して実施し、診療と医師の教育の質の向上を継続する。

4) CIS カルテでのレジメンの整理、調整を関係各所と継続して行う。

5) 患者数増加対策の継続実施。

2. 2020 年度の目標の評価

1) 腫瘍内科スタッフの維持・増員：がんを診療する優秀な内科医のニーズに対応できる腫瘍内科スタッフを維持、増加させ、期待されるレベルの診療を行うとともに、病院の長期的利益に貢献し、継続して行く。→ 腫瘍内科スタッフは、後期研修医、内科専攻医を合わせ 6 名が新たに加わった。

日米折衷スタイルの後期研修医教育を継続しており、その他、定期的に行っている週 1 回の腫瘍内科症例レビュー、臓器別がんカンサボード、国際 Web キャンサーボード、年 1 回の恒例行事である腫瘍内科セミナーなど、多くの教育プログラムを予定どおり実施した。

新専門医制度にスタッフ全員にて対応し、診療科としての魅力を高めることに努めた。

2) ゲノム医療拠点病院の指定取得に努力する：指定に必要な要件における最大の難関が、薬物療法の治験数である。池田先生にも努力して頂き、企業治験などでも症例数を増加させることに努力する。

また、現在行っているゲノム連携病院としてのゲノム検査、遺伝学的検査、診療を継続し、実績を積み上げる。→ 当院は千葉県に 6 ヶ所あるがんゲノム連携病院の 1 つとして 2019 年にかんゲノム医療が保険診療に取り入れられ、毎週非常勤で特任部長の東京医科歯科大学の腫瘍内科講師、池田貞勝医師が中心となって診療を行っている。定期的なゲノムがんカンサボード実施の他、池田医師はがんゲノムの院内レクチャーシリーズも毎週実施(レクチャーはビデオ収録しており後日閲覧可能)するなどゲノム医療の理解と検査の増加に努力した。

3) より質の高い医療を行う：本邦では当院だけで施行していると思われる、米国腫瘍内科医 2 名、英国人腫瘍内科医 1 名との Web キャンサーボードを継続する。実績を積み重ね、診療と医師の教育の質の向上を継続する。

➤ ダートマス大学腫瘍内科准教授の白井敬祐先生との国際 Web キャンサーボードが今年も定期的に行われた。

➤ サンアントニオ大学腫瘍内科教授の Virginia Kaklamani 先生(乳腺化学療法専門)との国際 Web キャンサーボードを、当院乳腺カンファの際に月 1 回行った。

➤ 英国ロイヤルマースダン病院 腫瘍内科 ロビンジョーンズ先生との肉腫がんボードを2020年7月から開始した。月1回定期的に行っている。
いずれも日本には珍しい国際がんボードであり、診療と医師の教育の質向上に役立っている。

4) 新電子カルテでのレジメンの整理・調整を関係各科と継続して行っていく。→レジメン登録委員会は2020年も定期的開催(4/28、6/23、8/25、10/27、12/22、3/2)され、新電子カルテでのレジメンの整理、調整作業が行われた。

6) 患者数増加対策の継続的実施。→亀田京橋クリニック腫瘍内科との連携や、大山部長のオンラインセカンドオピニオンの推奨他、院内、院外を問わず患者さまを受け入れた。

7) Web診療(大山部長のオンラインセカンドオピニオン)を要請に応じ、引き続き行っていく。コロナ対策になるが、実績数は上がっていない。宣伝の困難さ、価格なども問題である可能性があり再検討。
→大山部長によるWeb診療(オンラインセカンドオピニオン)は、計7件、要請に応じ行なった。昨年同様、実績数はさほど上がっていないが、対面ではないものの患者さまには大変満足を得ている。

3. 2020年度の診療活動

1) 外来部門(月、火、木、金)AM:再診、PM:一般初診、セカンドオピニオン外来及び他科コンサルト初診。他、亀田京橋クリニックでの外来診療を行っている。

2018年度より、部長によるオンラインセカンドオピニオン外来がスタートしており、遠方の患者さまに対応している。

2) 病棟部門 入院患者は併診を含めて常時50名前後。他科からのコンサルテーションを受け入れている。

4. 教育活動

- ・毎週(月)17:30～ 消化器がんボード(腫瘍内科、消化器内科、外科)
- ・隔週(火)7:00～ ダートマス大学腫瘍内科白井敬祐先生とのWeb呼吸器がんボード(腫瘍内科、呼吸器外科・内科、放射線科、病理科)
- ・隔週(火)7:30～ 呼吸器がんボード(腫瘍内科、呼吸器外科・内科、放射線科、病理科)
- ・第1・3(水)7:00～ 頭頸部がんボード(腫瘍内科、口腔外科、歯科、耳鼻科、放射線科、病理科)
- ・第2・4・5(水)7:30～ 耳鼻科がんボード(腫瘍内科、耳鼻科)
- ・毎週(水)10:30～ 腫瘍内科患者レビューカンファレンス
- ・毎週(水)8:00～ 乳腺がんボード(腫瘍内科、乳腺科、病理科、放射線科)
- ・隔週(木)7:00～ ダートマス大学腫瘍内科白井敬祐先生との腫瘍内科Webカンファレンス
- ・毎週(金)7:30～ 腫瘍内科レクチャー

*その他適時、重要な文献の抄読会、部長による各腫瘍に対する演繹的な講義と、希望により、看護師、コメディカル向けの講義などを実施。

5. スタッフ

[→ 亀田メディカルセンターホームページ スタッフ紹介へ](#)

6. 学術業績

1) 講演・講義他

大山 優

6/20(土)第10回 腫瘍内科セミナー(オンライン)講師「がんと血栓症、がん診療総論」

6/24(水)、7/1(水) 亀田医療大学講師

6/24(水) 亀田医療大学院講師

宮地康僚

6/21(日)10回 腫瘍内科セミナー(オンライン)講師「免疫チェックポイント阻害薬によるがん治療」

安次嶺宏哉

6/27(土)第10回 腫瘍内科セミナー(オンライン)講師「がん患者さんの感染症診療」

小林哲徳

6/27(土)第10回 腫瘍内科セミナー(オンライン)講師「原発不明がん」

齋藤駿河

6/21(日)10回 腫瘍内科セミナー(オンライン)講師「遺伝性腫瘍」

2) 学術関係

大山優：南山堂、What's New in Oncology 改訂第4版 2019年4月発行

大山優：日本臨床腫瘍学会第38回教育セミナーAセッション、骨軟部講師 2021年7月

文責：大山 優